

学校法人 大原学園

大原簿記公務員医療福祉保育専門学校立川校 学則

令和5年4月1日施行

大原簿記公務員医療福祉保育専門学校立川校学則

第1章 総 則

(目 的)

第1条 本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、簿記会計、税務会計、情報処理、医療事務の商業実務分野、公務員、スポーツ関連の文化・教養分野、福祉・保育人材育成の教育・社会福祉分野の専門教育を施し、人格の陶冶を行い、もって有為な産業人を育成することを目的とする。

(名 称)

第2条 本校は、大原簿記公務員医療福祉保育専門学校立川校という。

(位 置)

第3条 本校の位置を、東京都立川市緑町4番8に置く。

(自己点検・評価)

第4条 本校は、その教育の一層の充実を図り、本校の目的および社会的使命を達成するため、本校における教育活動等の状況について自ら点検および評価を行うものとする。

2. 前項の点検および評価の実施に関し、必要な事項は別に定める。

第2章 課程および学科、修業年限、定員、休業日

(課程・学科・修業年限・定員)

第5条 本校の課程、学科および修業年限ならびに定員は、次のとおりとする。

昼夜別	課 程 名	学 科 名	修業年限	入学定員	総定員	
昼間部	商業実務専門課程	経理ビジネス学科	2年	76名	152名	
		情報ビジネス学科	2年	37名	74名	
		医療事務学科	2年	38名	76名	
		会計専攻学科	1年	36名	36名	
		計		187名	338名	
	文化・教養専門課程	公務員学科	2年	156名	312名	
			1年	78名	78名	
		スポーツ学科	2年	37名	74名	
		計		271名	464名	
	教育・社会福祉専門課程	こども保育学科	2年	80名	160名	
		保育専攻学科	1年	38名	38名	
		介護福祉学科	2年	35名	70名	
		計		153名	268名	
	総 計				611名	1070名

2. 学生は前項に規定する各学科の修業年限の2倍を超えて在籍することができない。

(学年・学期の終始期)

第6条 本校の学年は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

2. 本校の学期は、各学期に分けて次のとおりとする。

(1) 前期 4月1日から9月30日まで

(2) 後期 10月1日から翌年3月31日まで

ただし、こども保育学科および介護福祉学科は次のとおりとする。

(1) 前期 4月1日から9月30日まで

(2) 後期 10月1日から3月31日まで

3. 前項に規定する学期のうち授業を行う期間については、前半期と後半期に分けることができるものとする。

(休業日)

第7条 本校の休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律で規定する日

(3) 夏季休業

(4) 冬季休業

(5) 春季休業

2. 前項第3号から第5号に規定する休業期間は、校長が別に定める。

3. 校長が必要であると認める場合は、特別の休業日を定めることができる。

4. 校長が必要であると認める場合は、休業日であっても授業(実習を含む)を行う日とすることができる。

5. 非常変災その他急迫の事情があるときは、臨時に授業を行わないことがある。

第3章 教育課程、授業時間および教職員組織

(教育課程・授業時間)

第8条 本校の教育課程及び授業時間等は別表-1、別表-2、別表-3、別表-4、別表-5、別表-6、別表-7、別表-8、別表-9および別表-10のとおりとする。

(始業および終業)

第9条 本校の始業時刻は、原則として午前9時30分、終業時刻は、原則として午後6時30分とする。

ただし、こども保育学科および介護福祉学科の終業時刻は原則として午後5時とする。

(教職員組織)

第10条 本校に次の教職員を置く。

(1) 校長 1名

(2) 校長兼任の場合、副校長を1名置く。

(3) 教員 29名以上

(4) 事務職員 1名以上

(5) 学校医 1名

2. 校長は校務を掌り、所属職員を監督する。

副校長は校長不在の際、校務を掌り、所属職員を監督する。

第4章 入学、休学、復学等

(入学資格)

第11条 本校に入学することができる者は、学校教育法第125条第3項及び同法施行規則第183条の定めるところにより、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)

(3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

- (5) 修業年限が3年以上の専修学校の高等課程を修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本校における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (9) 本校の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者

(入学時期)

第12条 本校の入学時期は、第6条に示す学年の始めとする。

(入学手続・許可)

第13条 本校の入学手続は、次のとおりとする。

- (1) 本校に入学しようとする者は、本校の定める入学願書その他の書類に必要事項を記載し、第30条に定める入学検定料を添えて指定期日までに出席しなければならない。
- (2) 前号の手続を終了した者に対して選考を行い、入学者を決定する。
- (3) 本校に入学を許可された者は、入学許可の日までに第30条に定める入学金を添えて入学手続をとらなければならない。

(休学・復学・再入学・転科・転校)

第14条 学生が疾病、その他やむを得ない理由によって15日以上修学することができない者は、校長の許可を得て休学することができる。

- 2. 休学の期間は1年以内とする。
- 3. 前1項の者は、休学の理由が消滅した場合は、校長に届け出て、許可を得て復学することができる。
- 4. 学生が他の学科等への転科を希望する場合には、在籍校の校長に願い出て許可を得なければならない。
- 5. 学生が他の学校等への転学を希望する場合には、在籍校の校長に願い出て許可を得なければならない。
- 6. 転科、転学の時期については校長の許可するところによりこれを認める。
- 7. 他の学科等に転科した者の履修時間、履修単位については、元の学科の全部または一部を校長の許可するところにより引き継ぐことができる。
- 8. 次の各号の一に該当する者で、本校に入学を希望する者があるときは、選考の上、校長は相当年次に入学を許可することができる。
 - (1) 専門学校を卒業し、又は退学した者で編入学を希望した者
 - (2) 第28条の規定により、本校の一学科を退学した者で、本校に再入学を希望した者
- 9. 編入学又は再入学した者の在学年数及び単位数については、元の学校の在学年数、単位数の全部又は一部を校長の許可するところにより算入することができる。

第5章 授業の履修、単位、試験、学業成績及び卒業等

(授 業)

第15条 授業は、講義・演習・実習もしくは実技のいずれかより又はこれらの併用で行うものとする。

- 2. 複数の課程、学科、クラスで合同授業を科目または同一内容の授業を行う場合、授業等に支障を来さない限り、合同授業または合併授業を行うことがある。ただし、介護福祉学科の領域『介護』に係る合併授業は行わない。
- 3. 授業科目の履修において、第18条の規定を満たさない者には補講授業を行うことがある。なお、補講授業は授業科目の未出席授業を行い、授業科目の出席時間とすることができる。また、別表で定める学年別授業科目の定めに関係なく、卒業までの間に行うこととする。
- 4. こども保育学科の履修においては、次に掲げる3項目に基づき認定する。
 - (1) 授業科目ごとの出席率が基準を満たしている者
授業科目ごとの出席時間数が履修時間数の3分の2に満たない者、および保育実習の出席時間数が履修時間の5分の4に満たない者は、履修の認定を行わないこととする。
 - (2) 授業科目ごとの学業成績で合格を修めた者
 - (3) 実習先施設で実習要件を満たしたと評価された者

5. 介護福祉学科の履修においては、次に掲げる3項目に基づき認定する。

(1) 授業科目ごとの出席率が基準を満たしている者

授業科目ごとの出席時間数が履修時間数の3分の2に満たない者、および介護実習の出席時間数が履修時間の5分の4に満たない者は、履修の認定を行わないこととする。

(2) 授業科目ごとの学業成績で合格を修めた者

(3) 実習先施設で実習要件を満たしたと評価された者

(単 位)

第16条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習にあつては15時間から30時間をもって1単位とする。

(2) 実習・実技にあつては30時間から45時間をもって1単位とする。

(試 験)

第17条 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内を行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認められた場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。

2. 各授業科目の成績評価方法については別に定める。

(学業成績)

第18条 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、次の通りとする。

秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。

2. 授業科目の成績は、前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP (Grade-Point) を与える。

(単位の称号)

第19条 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀、優、良、可を取得した学生には所定の単位を与える。

(他の大学・専修学校等における授業科目の履修等)

第20条 教育上有益と認める時は、校長の認めるところにより、他の大学・専修学校における授業科目の履修を、本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2. 前項により本校専門課程における授業科目の履修とみなすことができる単位数は、転学等の場合を除き、本校専門課程の修了に必要な単位数の2分の1を超えないものとする。

(卒業・称号の授与)

第21条 卒業の認定は、第5条に規定する修業年限以上在学して、下記に定める授業時数以上履修し、かつ下記に定めるところにより授業科目および単位数の修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。

(1) 商業実務専門課程 経理ビジネス学科 1, 700時間 (62単位)

(2) 商業実務専門課程 情報ビジネス学科 1, 700時間 (62単位)

(3) 商業実務課程専門 医療事務学科 1, 700時間 (62単位)

(4) 商業実務専門課程 会計専攻学科 850時間 (31単位)

(5) 文化・教養専門課程 公務員学科 (2年制) 1, 700時間 (62単位)

(6) 文化・教養専門課程 公務員学科 (1年制) 850時間 (31単位)

(7) 文化・教養専門課程 スポーツ学科 1, 700時間 (62単位)

(8) 教育・社会福祉専門課程 こども保育学科 1, 710時間 (72単位)

(9) 教育・社会福祉専門課程 保育専攻学科 850時間 (31単位)

(10) 教育・社会福祉専門課程 介護福祉学科 2, 074時間 (68単位)

2. 前項の規定により下記学科を修了した者には、次のとおり称号を授与する。

(1) 商業実務専門課程経理ビジネス学科は、専門士(商業実務専門課程)の称号を授与する。

(2) 商業実務専門課程情報ビジネス学科は、専門士(商業実務専門課程)の称号を授与する。

(3) 商業実務専門課程医療事務学科は、専門士(商業実務専門課程)の称号を授与する。

(4) 文化・教養専門課程公務員学科(2年制)は、専門士(文化・教養専門課程)の称号を授与する。

(5) 文化・教養専門課程スポーツ学科は、専門士(文化・教養専門課程)の称号を授与する。

(6) 教育・社会福祉専門課程こども保育学科は、専門士（教育・社会福祉専門課程）の称号を授与する。

(7) 教育・社会福祉専門課程介護福祉学科は、専門士（教育・社会福祉専門課程）の称号を授与する。

(進 級)

第22条 進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修および単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。

(資格の取得)

第23条 保育士資格を取得しようとする者は、児童福祉法及び児童福祉法施行規則に定める所定の単位を修得するとともに、本学の定める科目を合計1,710時間（72単位）以上修得しなければならない。

(既修得単位等の認定)

第24条 本学入学以前に、大学又は短期大学、介護福祉士養成施設等を卒業した者については、各大学、養成施設等において修得した単位又は履修科目について、教育上有益と認められるときは、校長の許可のもと、本学において修得した単位又は履修科目として認定することができる。

2. その他、既修得単位等の認定に関する規則については別に定める。

(注意文書)

第25条 欠席、遅刻、早退（以下、欠席等）が多く授業履修に支障をきたす恐れがある者に対しては注意文書を以て指導を行う。

2. 注意文書による指導はその欠席等の日数により、段階的に訓告、戒告とする。

第6章 褒章、懲戒および退学

(褒 章)

第26条 成績優秀にして他の模範となる者は、褒賞することがある。

(懲 戒)

第27条 学生が本校の規則、命令に背きもしくは本校の秩序を乱し、または学生として本分に反する行為があった場合には、校長はこれを懲戒することができる。

2. 前項に規定する懲戒種類は訓告、戒告、停学および退学とする。

3. 前項に規定する退学は次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込がないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込がないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席が常でない者

(4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

(5) 故意に学校の諸設備を破損、損傷させた者。なお、この者は諸設備の復元義務を負わなければならない。

4. 本条前2項に規定する停学に係る期間は出席時間数には算入しない。

(退 学)

第28条 自主退学しようとする者は、その事由を記し、校長の許可を受けなければならない。

(除 籍)

第29条 校長は、次の各号の一に該当する者については、これを除籍する。

(1) 第5条2項に規定する在籍期間を超えた者

(2) 第14条2項に規定する休学期間を超えた者

(3) 学費の納付を怠り、督促を受けてなおこれを納入しない者

(4) 退学願の返送がない者

第7章 入学金、授業料、特別奨学生、その他

(納 付 金)

第30条 本校の入学金、授業料等は、別表-11のとおりとする。

2. 前項に規定する納付金は、年度の更新に伴い改定することができる。

3. 納付済の授業料その他の納付金は、原則としてこれを返金しない。

ただし、入学手続完了から入学年の3月31日までに、入学辞退を希望する場合は、本校所定の

学費返還手続により納付金額から入学金を除いた額を返還する。

(特別奨学生)

第31条 本校に在籍する学生の中で特に成績優秀、品行方正にして本校生の模範となると判断される者、または本校入学時において、その入学しようとする者が特に成績優秀で他の入学生の模範と判断される者に対しては、校長はその一定期間における学費の全額またはその一部を免除することができる。

(健康診断)

第32条 健康診断は、毎年1回実施する。

第8章 附 帯 教 育

(附帯教育)

第33条 本校の附帯教育は次のとおりとする。

科 名	修業期間	備 考
簿 記 短 期 科	1～12ヶ月	午前の部 10:00～12:40 午後の部 14:00～16:40 夜間の部 18:30～21:40
税 理 士 短 期 科	1～12ヶ月	午前の部 10:00～12:40 午後の部 14:00～16:40 夜間の部 18:30～21:40
会 計 士 短 期 科	1～12ヶ月	午前の部 10:30～13:05 午後の部 14:00～17:05 夜間の部 18:40～21:45
公 務 員 短 期 科	1～12ヶ月	午前の部 10:00～12:40 午後の部 14:00～16:40 夜間の部 18:30～21:40
経 営 ビ ジ ネ ス 科	1～12ヶ月	午前の部 10:00～12:40 午後の部 14:00～16:40 夜間の部 18:30～21:40
介 護 福 祉 士 策 筆 記 試 験 対	6ヶ月	昼間の部 10:00～16:30 (週1日授業)
介 護 職 員 初 任 者 研 修 科	6ヶ月	通信
保 育 科	4ヶ月	通信
介 護 福 祉 士 実 務 者 養 成 課 程	6ヶ月	通信

(注) 授業は原則として、夜間の部 週2日授業とする。

2. 附帯教育の入学金、授業料、教材費その他必要事項は別に定める。

第9章 科目等履修生

(科目等履修生)

第34条 短期大学、大学等の他の高等教育機関との協議により、当該大学等の学生が本校において授業科目の一部を履修する場合、科目履修生として受け入れ、履修を認めることができる。ただし、介護福祉学科の領域『介護』に係る科目履修生の受け入れは行なわない。

2. 科目履修生の単位授与等については、別途校長が定めるものとする。

3. 入学金、授業料等は別に定める。

附 則

この学則の施行に関し必要な事項は、校長が別に定める。

1. この学則は平成 17 年 4 月 1 日から施行する。
2. この学則は平成 19 年 3 月 1 日から施行する。
3. この学則は平成 21 年 4 月 1 日から施行し、平成 21 年度入学生から適用する。
4. この学則は平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
5. この学則は平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
6. この学則は平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
7. この学則は平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
8. この学則は平成 27 年 4 月 1 日から施行し、平成 27 年度入学生から適用する。
9. この学則は平成 27 年 12 月 17 日から施行する。
10. この学則は平成 28 年 4 月 1 日から施行し、平成 28 年度入学生から適用する。
11. この学則は平成 29 年 3 月 15 日から施行する。
12. この学則は平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
13. この学則は平成 30 年 3 月 15 日から施行する。
14. この学則は平成 30 年 4 月 1 日から施行し、平成 30 年度入学生から適用する。
15. この学則は平成 31 年 3 月 15 日から施行する。
16. この学則は平成 31 年 4 月 1 日から施行し、平成 31 年度入学生から適用する。
17. この学則は 2020 年 4 月 1 日から施行し、2020 年度入学生から適用する。
18. この学則は令和 3 年 4 月 1 日から施行し、令和 3 年度入学生から適用する。
19. この学則は令和 4 年 4 月 1 日から施行し、令和 4 年度入学生から適用する。
20. この学則は令和 5 年 4 月 1 日から施行し、令和 5 年度入学生から適用する。

〈別表1〉（第8条 教育課程・授業時間）

経理ビジネス学科（1年次）

授 業 科 目	必選 の別	時間数	単位数
簿記入門Ⅰ	必修	30	1
一般教養Ⅰ	必修	30	1
ビジネス教養Ⅰ	必修	30	1
キャリアデザインⅠ	必修	30	1
2級商業簿記基礎Ⅰ	選必1	60	2
2級工業簿記基礎Ⅰ	選必1	60	2
2級簿記総合Ⅰ	選必1	90	3
3級商業簿記基礎	選必2	90	3
3級簿記総合	選必2	120	4
1級会計学入門Ⅰ	選択	90	3
1級原価計算入門Ⅰ	選択	90	3
1級会計学基礎Ⅰ	選択	30	1
1級原価計算基礎Ⅰ	選択	30	1
1級会計学総合Ⅰ	選択	90	3
1級原価計算総合Ⅰ	選択	90	3
2級商業簿記基礎Ⅱ	選択	90	3
2級工業簿記基礎Ⅱ	選択	90	3
2級商業簿記応用Ⅰ	選択	30	1
2級工業簿記応用Ⅰ	選択	30	1
2級簿記総合Ⅱ	選択	90	3
2級簿記総合Ⅲ	選択	90	3

授 業 科 目	必選 の別	時間数	単位数
ビジネス実務入門	選択	30	1
ビジネス実務応用	選択	60	2
秘書検定総合	選択	30	1
Power Point 基礎	選択	60	2
Power Point 応用	選択	30	1
Excel 基礎	選択	60	2
Excel 応用	選択	60	2
Word 基礎	選択	60	2
IT パスポート基礎	選択	90	3
IT パスポート応用	選択	30	1
IT リテラシ	選択	30	1
販売知識基礎	選択	90	3
販売知識応用	選択	90	3
色彩基礎Ⅰ	選択	60	2
キャリアデザインⅡ	選択	30	1
事務キャリアデザインⅠ	選択	30	1
事務キャリアデザインⅡ	選択	30	1
流通キャリアデザインⅠ	選択	30	1
流通キャリアデザインⅡ	選択	30	1
1級会計学入門Ⅱ	選択	60	2
1級原価計算入門Ⅱ	選択	60	2
全経簿記上級総合Ⅱ	選択	120	4
簿記論基礎Ⅱ	選択	120	4
財務諸表論基礎Ⅱ	選択	120	4

選必は選択必修科目、選択は選択科目を表す。

修業に必要な時間は、必修科目・選択必修科目・選択科目を合わせて年間 800 時間以上。

学習スケジュールに従い、1年次と2年次を合わせて1,700時間以上を履修する。

選択必修科目については、1から2のいずれかを必ず履修する。

【「選択必修科目1」を履修の者】

選択科目から470時間以上を履修する。

【「選択必須科目2」を履修の者】

選択科目から470時間以上を履修する。

経理ビジネス学科（2年次）

授 業 科 目	必選 の別	時間数	単位数
一般教養Ⅱ	必修	30	1
ビジネス教養Ⅱ	必修	30	1
経理実務	選必1	60	2
給与計算実務	選必1	30	1
マーケティング概論	選必2	60	2
マーケティング基礎	選必2	60	2
卒業研究・発表	選必2	150	5
コミュニケーション概論	選択	30	1
キャリアデザインⅢ	選択	30	1
実務会計 基礎	選択	120	4
実務会計 応用	選択	30	1
英会話入門	選択	30	1
経営法務入門	選択	30	1
コミュニケーション実践	選択	30	1
パソコン実習Ⅰ	選択	30	1
ビジネスマナー	選択	60	2
FP 基礎	選択	120	4
文化リテラシーⅢ	選択	30	1
パソコン実習Ⅱ	選択	30	1
パソコン実習Ⅲ	選択	30	1
パソコン実習Ⅳ	選択	30	1
事務職ビジネスマナー	選択	30	1
財務会計	選択	90	3
販売仕入管理	選択	30	1
FP 総合	選択	30	1
英会話 基礎	選択	30	1
Word 応用	選択	30	1
Excel 時短術	選択	60	2
ビジネスデータ分析	選択	30	1

授 業 科 目	必選 の別	時間数	単位数
時事	選択	30	1
販売職ビジネスマナー	選択	90	3
経営管理入門	選択	60	2
簿記論速習基礎Ⅱ	選択	120	4
簿記論速習応用Ⅱ	選択	120	4
簿記論速習総合Ⅲ	選択	120	4
簿記論速習総合Ⅳ	選択	120	4
簿記論応用Ⅱ	選択	60	2
財務諸表論応用Ⅱ	選択	60	2
簿記論総合Ⅱ	選択	180	6
財務諸表論総合Ⅱ	選択	180	6
簿記論入門Ⅲ	選択	30	1
財務諸表論入門Ⅲ	選択	30	1
消費税法入門Ⅲ	選択	30	1
相続税法入門Ⅲ	選択	30	1
法人税法入門Ⅲ	選択	30	1
簿記論基礎Ⅲ	選択	120	4
財務諸表論基礎Ⅲ	選択	120	4
消費税法基礎Ⅱ	選択	120	4
相続税法基礎Ⅱ	選択	120	4
法人税法基礎Ⅱ	選択	120	4
簿記論基礎Ⅳ	選択	30	1
財務諸表論基礎Ⅳ	選択	30	1
消費税法基礎Ⅲ	選択	30	1
相続税法基礎Ⅲ	選択	30	1
法人税法基礎Ⅲ	選択	30	1
英語	選択	60	2
体育	選択	60	2
経営学総論	選択	60	2
マーケティング研究	選択	240	8

選必は選択必修科目、選択は選択科目を表す。

修業に必要な時間は、必修科目・選択必修科目・選択科目を合わせて年間 800 時間以上。

学習スケジュールに従い、1 年次と 2 年次を合わせて 1,700 時間以上を履修する。

選択必修科目については、1 から 2 のいずれかを必ず履修する。

【「選択必修科目 1」を履修の者】

選択科目から 650 時間以上を履修する。

【「選択必修科目 2」を履修の者】

選択科目から 470 時間以上を履修する。

〈別表2〉（第8条 教育課程・授業時間）

情報ビジネス学科（1年次）

授業科目	必選の別	時間数	単位数
IT 基礎知識 I	必修	90	3
IT 基礎知識 II	必修	90	3
コンピューターリテラシー	必修	30	1
HTML/CSS	必修	30	1
Linux	必修	30	1
Python I	必修	90	3
IT キャリアデザイン I	必修	30	1
一般教養 I	必修	30	1
Python II	必修	60	2
Python フレームワーク	必修	120	4
データベース I	必修	30	1
クラウド技術 I	必修	60	2
IT キャリアデザイン II	必修	60	2
Java	必修	60	2
AI クラウドプログラミング	必修	60	2
JavaScript	選択	60	2
データサイエンス	選択	60	2

修業に必要な時間は、必修科目・選択科目を合わせて年間 800 時間以上。

学習スケジュールに従い、1 年次と 2 年次を合わせて 1,700 時間以上を履修する。

情報ビジネス学科（2年次）

授業科目	必選の別	時間数	単位数
Java フレームワーク	必修	90	3
データベースⅡ	必修	60	2
IT キャリアデザインⅢ	必修	120	4
アジャイル開発	必修	30	1
オブジェクト指向分析設計	必修	90	3
卒業制作Ⅰ	必修	90	3
卒業制作Ⅱ	必修	90	3
IT キャリアデザインⅣ	必修	30	1
卒業制作Ⅲ	必修	150	5
先端クラウドシステム開発Ⅰ	選択1	60	2
Java システム開発	選択1	120	4
機械学習プログラミング	選択2	60	2
AI システム開発Ⅰ	選択2	120	4

修業に必要な時間は、必修科目・選択科目を合わせて年間 800 時間以上。

学習スケジュールに従い、1 年次と 2 年次を合わせて 1,700 時間以上を履修する。

必修科目の他に選択科目 1 又は 2 を選択するものとする。

〈別表3〉（第8条 教育課程・授業時間）

医療事務学科（1年次）

授業科目	必修の別	時間数	単位数
医療請求事務基礎Ⅰ	必修	60	2
医療請求事務基礎Ⅱ	必修	30	1
医療請求事務基礎演習	必修	60	2
医療請求事務応用Ⅰ	必修	60	2
医療請求事務応用Ⅱ	必修	30	1
医療請求事務応用演習	必修	30	1
医療秘書実務基礎Ⅰ	必修	60	2
医療秘書実務基礎Ⅱ	必修	30	1
医療秘書実務基礎演習	必修	30	1
医療秘書実務応用Ⅰ	必修	30	1
医療秘書実務応用Ⅱ	必修	30	1
医療秘書実務応用演習	必修	30	1
医療秘書実践Ⅰ	必修	30	1
医療秘書実践Ⅱ	必修	60	2
医療秘書実践Ⅲ	必修	30	1
手話演習	必修	30	1
一般教養Ⅰ	必修	30	1
キャリアデザインⅠ	必修	30	1
医療キャリアデザインⅠ	必修	30	1
診療報酬基礎	選択	30	1
診療報酬応用Ⅰ	選択	60	2
診療報酬応用Ⅱ	選択	60	2
診療報酬演習	選択	60	2
患者接遇論Ⅰ	選択	30	1
病院実習Ⅰ	選択	60	2
病院研究	選択	30	1
患者接遇論概論	選択	30	1
病院実習Ⅱ	選択	60	2
ビジネス教養Ⅰ	選択	30	1
医療キャリアデザインⅢ	選択	60	2
ビジネス文書作成	選択	30	1
一般教養Ⅱ	選択	30	1
医療キャリアデザインⅡ	選択	30	1

修業に必要な時間は、必修科目・選択科目を合わせて年間 800 時間以上。

学習スケジュールに従い、1年次と2年次を合わせて1,700時間以上を履修する。

必修科目の他に選択科目より80時間以上を履修する。

医療事務学科（2年次）

授業科目	必修の別	時間数	単位数
医療秘書実践Ⅳ	必修	60	2
キャリアデザインⅡ	必修	30	1
キャリアデザインⅢ	必修	30	1
医療秘書実践Ⅴ	必修	60	2
ビジネス教養Ⅱ	必修	30	1
医療ボランティア実践Ⅰ	必修	30	1
医療ボランティア実践Ⅱ	必修	60	2
接遇論マナー実践	必修	60	2
病院実習Ⅲ	必修	60	2
病院実習Ⅳ	必修	60	2
医療ビジネスマナーⅠ	必修	30	1
請求事務実践Ⅰ	必修	30	1
医療キャリアデザインⅣ	選択	30	1
医療ボランティア概論	選択	30	1
医薬品知識	選択	30	1
調剤報酬請求事務	選択	60	2
調剤報酬請求事務演習	選択	30	1
Excel 基礎	選択	60	2
Excel 応用	選択	30	1
医療キャリアデザインⅥ	選択	30	1
こころとからだのしくみと生活支援	選択	60	2
ケア計画基礎論	選択	60	2
接遇実践	選択	60	2
簿記入門Ⅰ	選択	30	1
3級商業簿記基礎	選択	90	3
3級簿記総合	選択	120	4
ビジネスマナー	選択	60	2
医療ビジネスマナーⅡ	選択	30	1
請求事務実践Ⅱ	選択	30	1
社会保険基礎論	選択	30	1
医学知識	選択	30	1
パソコン実習Ⅰ	選択	30	1
病院実習Ⅴ	選択	60	2
病院実習Ⅵ	選択	60	2
病院実習Ⅶ	選択	30	1
病院実習Ⅷ	選択	60	2

修業に必要な時間は、必修科目・選択科目を合わせて年間 800 時間以上。

学習スケジュールに従い、1 年次と 2 年次を合わせて 1,700 時間以上を履修する。

必修科目の他に選択科目より 260 時間以上を履修する。

〈別表 4〉（第 8 条 教育課程・授業時間）

会計専攻学科 1 年制（1 年次）

授 業 科 目	必選の別	時間数	単位数	
簿記入門 I	必修	30	1	
一般教養 I		30	1	
一般教養 II		30	1	
ビジネス教養 II		30	1	
簿記論総合 I	選択	180	6	
簿記論総合 II		180	6	
財務諸表論総合 I		180	6	
財務諸表論総合 II		180	6	
消費税法応用 I		60	2	
消費税法総合 I		180	6	
消費税法基礎 II		120	4	
法人税法応用 I		60	2	
法人税法総合 I		180	6	
法人税法基礎 II		120	4	
相続税法応用 I		60	2	
相続税法総合 I		180	6	
相続税法基礎 II		120	4	
経理実務 II		60	2	
経理実務 III		30	1	
給与計算実務 II		30	1	
履修時間数及び単位数		850 時間以上	31 単位以上	

選択科目

- ・ 選択 1 の中から合計 810 時間以上の履修となるよう選択する。

<別表5> (第8条 教育課程・授業時間)

公務員学科2年制(1年次)

授 業 科 目	必選 の別	時間 数	単位 数
基礎数的Ⅰ 数的推理	必修	52	2
基礎数的Ⅱ 判断推理	必修	36	2
基礎数的Ⅲ 空間把握・資料解釈	必修	44	2
基礎社会科学Ⅰ 政治	必修	32	2
基礎社会科学Ⅱ 経済	必修	26	1
基礎社会科学Ⅲ 社会	必修	15	1
基礎人文科学Ⅰ 地理	必修	24	1
基礎人文科学Ⅱ 日本史	必修	28	1
基礎言語Ⅰ 文理・国語	必修	15	1
基礎演習Ⅴ 知能系科目総合	必修	60	2
総合教養演習Ⅰ 基礎教養	必修	56	2
一般教養Ⅰ	必修	30	1
基礎自然科学Ⅰ 生物	選択	20	1
基礎自然科学Ⅱ 地学	選択	16	1
基礎自然科学Ⅲ 物理	選択	16	1
基礎自然科学Ⅳ 化学	選択	16	1
基礎言語Ⅱ 英語	選択	15	1
基礎演習Ⅰ 数的処理	選択	40	2
基礎演習Ⅱ 社会科学	選択	28	1
基礎演習Ⅲ 人文科学	選択	28	1
基礎演習Ⅳ 自然科学	選択	20	1
基礎演習Ⅵ 知識系科目総合	選択	60	2
総合教養演習Ⅱ 実践教養	選択	56	2
一般教養Ⅱ	選択	30	1
キャリアデザインⅠ	選択	30	1
トレーニング実習	選択	30	1
職業実務Ⅰ	選択	15	1
職業実務Ⅱ	選択	15	1
職業実務Ⅲ	選択	15	1
上級数的処理	選択	60	2
上級人文科学	選択	50	2
上級自然科学	選択	28	1
憲法	選択	52	2

授 業 科 目	必選 の別	時間 数	単位 数
民法	選択	68	3
行政法	選択	60	2
政治学	選択	24	1
行政学	選択	24	1
ミクロ経済学	選択	48	2
マクロ経済学	選択	52	2
財政学	選択	24	1
社会学	選択	24	1
会計学	選択	15	1
社会事情	選択	15	1
経済事情	選択	15	1
国際関係	選択	15	1
経営学	選択	15	1
教育学	選択	15	1
心理学	選択	15	1
商法	選択	15	1
公務員就職試験対策Ⅰ	選択	30	1
ビジネス教養Ⅰ	選択	30	1
ビジネス文書作成	選択	30	1
公務員キャリアデザインⅠ	選択	90	3
職業実務Ⅳ	選択	15	1
職業実務Ⅴ	選択	15	1
公共ボランティア実習Ⅰ	選択	30	1
Excel 基礎	選択	60	2
Word 基礎	選択	60	2
IT パスポート応用	選択	30	1
IT リテラシ	選択	30	1
販売知識基礎	選択	90	3
販売知識応用	選択	90	3
色彩基礎Ⅰ	選択	60	2
キャリアデザインⅡ	選択	30	1
流通キャリアデザインⅠ	選択	30	1
流通キャリアデザインⅡ	選択	30	1

修業に必要な時間は、必修科目・選択科目を合わせて年間 800 時間以上。
 学習スケジュールに従い、1年次と2年次を合わせて1,700時間以上を履修する。
 選択科目から 382 時間以上を履修する。

公務員学科 2 年制（2 年次）

授 業 科 目	必選 の別	時間数	単位数
ビジネスマナー	必修	60	2
パソコン実習Ⅰ	必修	30	1
公官庁講話	選必1	20	1
公務員倫理	選必1	15	1
マーケティング概論	選必2	60	2
マーケティング基礎	選必2	60	2
卒業研究・発表	選必2	150	5
基礎人文科学Ⅲ 東洋史・近代史	選択	16	1
基礎人文科学Ⅳ 古代史・西洋史	選択	18	1
基礎人文科学Ⅴ 倫理・文学・芸術	選択	16	1
基礎自然科学Ⅴ 理数科目総合	選択	20	1
基礎数学Ⅰ	選択	16	1
応用演習Ⅰ 数的処理	選択	24	1
応用演習Ⅱ 社会科学	選択	28	1
応用演習Ⅲ 人文科学	選択	30	1
応用演習Ⅳ 自然科学	選択	16	1
応用演習Ⅴ 数的処理本試験対策	選択	24	1
総合答案練習Ⅰ	選択	84	3
総合答案練習Ⅱ	選択	48	2
実践答案練習Ⅰ	選択	48	2
直前答案練習Ⅰ	選択	180	6
直前答案練習Ⅱ	選択	102	4
公務員時事対策	選択	30	1

授 業 科 目	必選 の別	時間数	単位数
公務員時事研究	選択	30	2
公務員就職試験対策Ⅱ	選択	30	1
キャリアデザインⅡ	選択	30	1
公務員キャリアデザインⅡ	選択	120	4
公務員適性検査演習Ⅰ	選択	60	2
公務員教養論文対策	選択	30	2
公共ボランティア実習Ⅱ	選択	30	1
法律研究	選択	30	1
行政研究	選択	30	1
一般教養Ⅱ	選択	30	1
ビジネス教養Ⅱ	選択	30	1
コミュニケーション概論	選択	30	1
キャリアデザインⅢ	選択	30	1
英会話入門	選択	30	1
経営法務入門	選択	30	1
コミュニケーション実践	選択	30	1
文化リテラシーⅢ	選択	30	1
パソコン実習Ⅱ	選択	30	1
パソコン実習Ⅲ	選択	30	1
パソコン実習Ⅳ	選択	30	1
英会話基礎	選択	30	1
時事	選択	30	1
販売職ビジネスマナー	選択	90	3
経営管理入門	選択	60	2

選必は選択必修科目を表す。

修業に必要な時間は、必修科目・選択必修科目・選択科目を合わせて年間 800 時間以上。

学習スケジュールに従い、1 年次と 2 年次を合わせて 1,700 時間以上を履修する。

【「選択必修科目 1」を履修の者】

選択科目から 675 時間以上を履修する。

【「選択必修科目 2」を履修の者】

選択科目から 590 時間以上を履修する。

〈別表 6〉（第 8 条 教育課程・授業時間）

公務員学科 1 年制

授業科目	必修の別	時間数	単位数
実践数的Ⅰ 数的推理	必修	30	1
実践数的Ⅱ 判断推理	必修	20	1
実践数的Ⅲ 空間把握・資料解釈	必修	24	1
実践社会科学Ⅰ 政治	必修	20	1
実践社会科学Ⅱ 経済	必修	24	1
実践演習Ⅰ 数的処理	必修	24	1
実践演習Ⅱ 社会科学	必修	28	1
直前答案練習Ⅰ	必修	180	6
直前答案練習Ⅱ	必修	102	4
公務員時事対策	必修	30	1
一般教養Ⅰ	必修	30	1
公務員適性検査演習Ⅰ	必修	60	2
公務員教養論作文対策	必修	30	2
公官庁講話	必修	20	1
実践数的Ⅳ 数的総合	選択	40	2
実践人文科学Ⅰ 地理	選択	20	1
実践人文科学Ⅱ 歴史	選択	30	1
実践自然科学Ⅰ 生物・地学	選択	28	1
実践言語Ⅰ 文理・国語	選択	15	1
実践演習Ⅲ 人文科学	選択	24	1
実践演習Ⅳ 自然科学	選択	16	1
実践答案練習Ⅰ	選択	48	2
公務員キャリアデザインⅡ	選択	120	4
公務員倫理	選択	15	1
ビジネスマナー	選択	60	2
パソコン実習Ⅰ	選択	30	1
法律研究	選択	30	1
行政研究	選択	30	1
基礎人文科学Ⅴ 倫理・文学・芸術	選択	16	1
基礎自然科学Ⅲ 物理	選択	16	1
基礎自然科学Ⅳ 化学	選択	16	1
基礎自然科学Ⅴ 理数科目総合	選択	20	1
基礎数学Ⅰ	選択	16	1

修業に必要な時間は、必修科目と選択科目を合わせて年間 800 時間以上。

選択科目から 178 時間以上を履修する。

〈別表 7〉（第 8 条 教育課程・授業時間）

スポーツ学科（1 年次）

授業科目	必修の別	時間数	単位数
一般教養 I	必修	30	1
ビジネス教養 I	必修	30	1
キャリアデザイン I	必修	30	1
キャリアデザイン II	必修	30	1
スポーツビジネスキャリアデザイン I	必修	30	1
スポーツビジネスキャリアデザイン II	必修	30	1
ダイビング実習	必修	60	2
簿記入門 I	必修	30	1
販売知識基礎	必修	90	3
販売知識応用	必修	90	3
Power Point 基礎	必修	60	2
Power Point 応用	必修	30	1
IT パスポート基礎	必修	90	3
IT パスポート総合	必修	30	1
IT リテラシ	必修	30	1
色彩基礎 I	必修	60	2
Excel 基礎	必修	60	2
Word 基礎	必修	60	2
グループフィットネス理論	選択	90	3
グループフィットネス演習	選択	30	1
グループフィットネス実践	選択	90	3
救急法・蘇生法	選択	30	1
3 級商業簿記基礎	選択	90	3
3 級簿記総合	選択	120	4
2 級商業簿記基礎 I	選択	60	2
2 級工業簿記基礎 I	選択	60	2
2 級簿記総合 I	選択	90	3
インターンシップ	選択	60	2
キャンプ実習	選択	30	1
スキー基礎技術論	選択	30	1
スノーボード基礎技術論	選択	30	1

修業に必要な時間は、必修科目・選択科目を合わせて年間 800 時間以上。

学習スケジュールに従い、1 年次と 2 年次を合わせて 1,700 時間以上を履修することとする。

スポーツ学科 2 年制（2 年次）

履修科目	必修の別	時間数	単位数
一般教養Ⅱ	必修	30	1
ビジネス教養Ⅱ	必修	30	1
コミュニケーション概論	必修	30	1
キャリアデザインⅢ	必修	30	1
英会話入門	必修	30	1
経営法務入門	必修	30	1
英会話基礎	必修	30	1
コミュニケーション実践	必修	30	1
パソコン実習Ⅰ	必修	30	1
ビジネスマナー	必修	60	2
経営管理入門	必修	60	2
販売職ビジネスマナー	必修	90	3
パソコン実習Ⅱ	必修	30	1
パソコン実習Ⅲ	必修	30	1
パソコン実習Ⅳ	必修	30	1
マーケティング概論	必修	60	2
マーケティング基礎	必修	60	2
卒業研究・発表	必修	150	5
時事	必修	30	1
文化リテラシⅢ	必修	30	1

修業に必要な時間は、年間 800 時間以上。

学習スケジュールに従い、1 年次と 2 年次を合わせて 1,700 時間以上を履修することとする。

〈別表8〉（第8条 教育課程・授業時間）
こども保育学科（1年次）

授業科目		必選の別	時間数	単位数
教養科目	健康科学	必	15	1
	スポーツ（実技）	必	30	1
	英語コミュニケーションⅠ	選1	60	2
	一般教養	選1	30	2
	ビジネス教養	選1	30	2
	情報リテラシーと処理技術	選1	60	2
	憲法	選1	30	2
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	必	30	2
	保育原理Ⅱ	選2	30	2
	子ども家庭福祉	必	30	2
	子ども家庭福祉Ⅱ	選2	30	2
	社会福祉	必	30	2
	社会的養護Ⅰ	必	30	2
	保育者論	必	30	2
保育の対象の理解に関する科目	こどもの理解と援助	必	30	1
保育の内容・方法に関する科目	保育内容総論	必	30	1
	保育内容（健康）	必	30	1
	保育内容（人間関係）	必	30	1
	保育内容（環境）	必	30	1
	保育内容（言葉）	必	30	1
	保育内容（表現）	必	30	1
	乳児保育Ⅰ	必	30	2
	子どもの健康と安全	必	30	1
	言語表現	必	30	1
	造形表現Ⅰ	必	30	1
	音楽とリズム	必	30	1
	レクリエーション概論	選2	30	2
	レクリエーション指導法	選3	60	2
	児童レクリエーション概論	選2	30	2
	こどもと音楽	選2	15	1
	鍵盤奏法の基礎	選3	60	2
	保育実習	保育実習Ⅰ①	必	80
保育実習指導Ⅰ①		必	30	1
独自科目	コミュニケーション論	選4	30	1
	コミュニケーション論Ⅱ	選4	30	1
	キャリア教育Ⅰ	選4	30	2
	キャリア教育Ⅱ	選4	30	2
	キャリア教育Ⅲ	選4	30	2
	保育インターンシップⅠ	選4	30	1
	保育インターンシップⅡ	選4	30	1
年間時間数及び単位数			860時間以上	39単位以上

選1は、6単位以上を選択必修とする。

選2は、3単位以上を選択必修とする。

選3は、2単位以上を選択必修とする。

選4は、任意選択とする。

こども保育学科（2年次）

	授業科目	必選の別	時間数	単位数
保育の本質・目的に関する科目	教育原理	必	30	2
	子どもの家庭支援論	必	30	2
保育の対象の理解に関する科目	子どもの食と栄養	必	60	2
	保育の心理学	必	30	2
	子ども家庭支援の心理学	必	30	2
	子どもの食と保健	必	30	2
	子ども学概論	選2	30	2
	子どもの理解と援助Ⅱ	選2	30	1
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	必	30	2
	乳児保育Ⅱ	必	30	1
	障害児保育	必	60	2
	社会的養護Ⅱ	必	30	1
	子育て支援	必	30	1
	保育方法論	選1	60	2
	身体表現	必	30	1
	小児体育	選2	30	1
	造形表現2	選1	60	2
	音楽表現1	選2	30	1
	鍵盤奏法の応用	選1	60	2
保育実習	保育実習Ⅰ②	必	80	2
	保育実習指導Ⅰ②	必	30	1
	保育実習Ⅱ	必	80	2
	保育実習指導Ⅱ	必	30	1
総合演習	保育実践演習	必	60	2
独自科目	卒業研究	選3	30	1
	コミュニケーション論Ⅲ	選3	30	1
	キャリア教育Ⅳ	選3	30	2
	保育インターンシップⅢ	選3	30	1
	保育インターンシップⅣ	選3	30	1
	年間時間及び単位数		850 時間以上	33 単位以上
	年間時間及び単位数		1,710 時間以上	72 単位以上

必は必修科目を表し、選は選択科目を表す。

選1は、4単位以上を選択必修とする。

選2は、1単位以上を選択必修とする。

選3は、任意選択とする。

〈別表9〉（第8条 教育課程・授業時間）

保育専攻学科 1年制

授業科目名	必修の別	時間数	単位数
一般教養Ⅰ	必修	30	1
キャリアデザインⅠ	必修	30	1
キャリアデザインⅡ	必修	30	1
保育キャリアデザイン	必修	30	1
パソコン演習	必修	30	1
図画工作	必修	30	1
音楽・リズム表現Ⅰ	必修	30	1
実習事前指導	必修	30	1
保育・幼稚園実習	必修	60	2
小児援助技術Ⅰ	必修	60	2
小児援助技術Ⅱ	必修	60	2
医学と疾病	必修	30	1
ボランティア実践	必修	60	2
障害児（者）援助論	必修	30	1
保育実践演習Ⅰ	必修	60	2
保育実践演習Ⅱ	必修	60	2
保育実践演習Ⅲ	必修	30	1
卒業研究	必修	30	1
児童レクリエーションⅠ	選択	30	1
児童レクリエーションⅡ	選択	30	1
保育現場実践演習Ⅰ	選択	30	1
保育現場実践演習Ⅱ	選択	30	1
発達心理学	選択	30	1
養護内容	選択	30	1
音楽・リズム表現Ⅱ	選択	30	1
音楽・リズム表現Ⅲ	選択	30	1
健康スポーツ実践Ⅰ	選択	30	1
健康スポーツ実践Ⅱ	選択	30	1
保育相談支援	選択	30	1
表現と言葉	選択	30	1
地域子育て支援	選択	30	1
保護者と家庭支援	選択	30	1
ビジネスマナー実践	選択	30	1
年間時間及び単位数		850 時間以上	33 単位以上

必修科目の他に、選択科目より7単位以上を受講する。

<別表10> (第8条 教育課程・授業時間)

介護福祉学科2年制(1年次)

領域	授業科目	必選の別	単位数	年間授業時間数
人間と社会	人間の理解Ⅰ	必	1	30
	人間の理解Ⅱ	必	2	60
	社会の理解	必	1	60
	人間と社会特論Ⅰ	選	1	30
介護	介護の基本Ⅰ	必	1	30
	介護の基本Ⅱ	必	1	30
	介護の基本Ⅲ	必	1	30
	介護の基本Ⅳ	必	1	30
	介護の基本Ⅴ	必	1	30
	介護の基本Ⅵ	必	1	30
	コミュニケーション技術Ⅰ	必	1	30
	生活支援技術の基本	必	2	60
	日常生活介護Ⅰ	必	1	30
	日常生活介護Ⅱ	必	1	30
	日常生活介護Ⅳ	必	1	30
	介護過程Ⅰ	必	1	30
	介護総合演習Ⅰ	必	2	40
	介護総合演習Ⅱ	必	2	40
	介護実習Ⅰ	必	3	120
	介護実習Ⅱ	必	4	160
	介護特論Ⅰ	選	1	30
	介護特論Ⅱ	選	1	30
	介護特論Ⅲ	選	1	30
	介護実践Ⅰ	選	1	30
介護実践Ⅱ	選	1	30	
こころとからだのしくみ	認知症の理解	必	2	60
	こころとからだのしくみⅠ	必	1	30
	こころとからだのしくみⅡ	必	1	30
	こころとからだのしくみⅢ	必	1	30
	こころとからだのしくみ特論Ⅰ	選	1	30
必修科目授業単位及び時間数			34単位	1050時間
選択科目授業単位及び時間数			7単位	210時間
総授業単位及び時間数			41単位	1260時間

【履修方法】

	選択内容	履修時間
必修科目	全科目履修	1050時間
選択科目	選は全て任意選択とする	—
合計		1050時間以上

介護福祉学科 2年制（2年次）

領域	授業科目	必選の別	単位数	年間授業時間数
人間と社会	レクリエーション基礎	必	1	30
	レクリエーション指導	必	2	40
	社会常識	必	1	30
	情報科学演習	必	1	30
	人間と社会の総合	必	1	30
	人間と社会特論Ⅱ	選	1	30
	福祉実務	選	1	30
介護	コミュニケーション技術Ⅱ	必	1	30
	福祉住環境Ⅰ	必	1	30
	家事介護	必	1	30
	日常生活介護Ⅲ	必	1	30
	日常生活介護Ⅴ	必	1	30
	利用者の状態・状況に応じた介護技術	必	1	30
	介護過程Ⅱ	必	2	60
	介護過程Ⅲ	必	2	60
	介護総合演習Ⅲ	必	2	40
	介護実習Ⅲ	必	4	176
	介護の総合	必	3	90
	介護特論Ⅳ	選	1	30
	福祉住環境Ⅱ	選	1	30
	介護実践Ⅲ	選	1	30
介護実践Ⅳ	選	1	30	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	必	2	60
	障害の理解	必	2	60
	こころとからだのしくみⅣ	必	1	30
	こころとからだのしくみの総合	必	1	30
	こころとからだのしくみ特論Ⅱ	選	1	30
医療的ケア	医療的	必	3	78
必修科目授業単位及び時間数			34単位	1024時間
選択科目授業単位及び時間数			7単位	210時間
総授業単位及び時間数			41単位	1234時間

【履修方法】

	選択内容	履修時間
必修科目	全科目履修	1024時間
選択科目	選は全て任意選択とする	—
合計		1024時間以上

〈別表11〉 (第30条 納付金)

入学金・授業料等 (1年分)

商業実務専門課程

(単位:円)

		入学金	授業料	教材費	維持費	実習・演習費	合計
昼間部	経理ビジネス学科 2年制	200,000	680,000	80,000	120,000	200,000	1,280,000
	情報ビジネス学科 2年制	200,000	680,000	80,000	120,000	280,000	1,360,000
	医療事務学科 2年制	200,000	680,000	80,000	120,000	90,000	1,170,000
	会計専攻学科 1年制	200,000	680,000	80,000	120,000	140,000	1,220,000

文化・教養専門課程

(単位:円)

		入学金	授業料	教材費	維持費	実習・演習費	合計
昼間部	公務員学科 2年制	200,000	680,000	80,000	120,000	140,000	1,220,000
	公務員学科 1年制	200,000	680,000	80,000	120,000	140,000	1,220,000
	スポーツ学科 2年制	200,000	680,000	80,000	120,000	200,000	1,280,000

教育・社会福祉専門課程

(単位:円)

		入学金	授業料	教材費	維持費	実習・演習費	合計
昼間部	こども保育学科 2年制	200,000	680,000	80,000	120,000	40,000	1,120,000
	保育専攻学科 1年制	200,000	680,000	80,000	120,000	40,000	1,120,000
	介護福祉学科 2年制	200,000	680,000	80,000	200,000	100,000	1,260,000

※ 入学選考料は20,000円とする。

※ 進級時の学費も同様とする。ただし、入学金は、入学年度のみ納入とする。

※ 経理ビジネス学科のうち税理士・会計士コースの実習・演習費は140,000円とする。

※ こども保育学科においてキャリア教育科目を選択した場合は、実習費を140,000円とする。

※ スポーツ学科のうちリゾート&スポーツビジネスコースの実習・演習費は1年次300,000円、2年次200,000円とする。